

平成30年度予算編成方針

平成30年度予算編成に向けて

我が国経済の動向は、緩やかな回復基調が続いているとされている。政府は、成長と分配の好循環を一時的なものに終わらせることなく、一億総活躍社会の実現を図るため「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」からなる「新・三本の矢」を一体的に推進していくこととしている。

これらの取組の基本方針である「経済財政運営と改革の基本方針2017」（骨太方針）では、地方創生が掲げられており、地方公共団体は、地域が持つ魅力を最大限引き出し、自助の精神を持って取り組むことが求められている。

一方、本市における平成28年度決算は実質収支の黒字を確保したものの、財政調整基金を4億4千5百万円取り崩しており、平成20年度以来8年ぶりに主要基金が減少する事態となった。さらに将来を見通すと、少子高齢化、人口減少、都市基盤整備や公共施設の老朽化対策などにより財政需要が増加していくことが予想される。

このような社会情勢、厳しい財政状況の中、小さくてもキラリと光る魅力あふれるまちとして、住み続けたい・住んでみたいと思えるまちを実現するため、「第4次摂津市総合計画」、「摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた取組みを推し進めていかなければならない。これまでも厳しい状況に直面することがあったが、創意工夫、たゆまぬ努力によりなんとか乗り越えることができた。これまでと同様に英知を結集して、総合計画、総合戦略にそった取組みを進めていかなければならない。

課題は山積しているが、今後もぶれることなく、しっかりと「財政健全化」「夢づくり」「人づくり」を市政運営の柱に据えるとともに、さらに10年後、20年後、50年後に摂津が大きく飛躍できるよう、今なすべきことを確実に実行することが極めて重要である。そのため平成30年度の予算編成にあたっては、未来を支える「こども」、まちづくりの基礎となる「安全・安心」、そして「健康」の3つを引き続き重点テーマに据え、これらに一層磨きをかけることで、未来へと豊かな暮らしをつなげる予算を編成していきたい。

本市は、平成28年度決算において、黒字決算を維持したものの、これは赤字地方債の発行および基金の取崩しにより収支の均衡を図ったものである。財政の弾力性を示す経常収支比率は94.8%となり、依然、危険な状態であることに変わりはない。今後も超高齢化社会に伴う社会保障関連経費の増加や老朽化した施設の維持補修などの財政需要が見込まれ、より一層厳しい財政状況が予想される。これらのことから、職員一人一人が現状に対する危機意識を強く持ち、限られた財源の中で、最大の効果を上げるための創意工夫を凝らし、各事務事業ベースで抜本的な見直しを図ることが必要である。

平成30年度予算編成に当たって、職員は現下の財政状況を十分に認識し、①第5次行政改革実施計画を反映した予算要求とすること、②平成28年度決算の状況や平成29年度予算の執行状況等を十分に分析し、徹底した経費削減に努めること、③新規、拡充事業については、補助金等の活用はもとより事業の再構築などにより、必要な財源を確保すること、④歳入については、自主財源の確保、受益者負担の原則を再認識し、適正額の確保に努めること、以上4点を基本方針とする。